

2018 年度 春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科



# 授業改善アンケート調査結果

## 1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2014年度前期から授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更し、2016年度より、2011年に開設されたグローバル30人間科学コース（以下、G30）でのアンケートも開始した。さらに昨年度からは、講義科目以外の演習、実習、研究についても KOAN 上でのアンケートを開始した。実施期間は以下の通りである。

2018年度春夏学期アンケート回答期間：2018年7月4日～8月6日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、講義科目 75.4%（2017年度春夏学期：72.8%）、講義以外の科目 21.1%であった（2017年度春夏学期：22.2%）。

2018年度春夏学期授業改善アンケート 講義科目  
対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	7	395
	行動系科目	14	395
	社会・人間系科目	11	332
	教育系科目	12	452
	共生系科目	6	149
大学院科目	共通科目	6	40
	その他	37	299
G30 科目		20	117
計		113	2179

回収数 2179 / 受講登録者数 2889 = 回収率 75.4%

講義科目以外(演習、実習、研究)

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通	3	10
	行動学	22	12
	社会学	11	22
	教育学	17	26
	共生学	13	7
大学院科目	共通科目	7	47
	行動系科目	19	20
	社会・人間系科目	23	13
	教育系科目	26	55
	共生系科目	20	23
計		160	235

回収数 235 / 受講登録者数 1113 = 回収率 21.1%

- ※1 基礎科目は、行動・社会・教育・共生系科目に割り振られている。  
 2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

## 2. 授業改善アンケートの結果

前回より、全科目をアンケート実施対象科目とし、講義科目については従来通りマークシート方式を、講義以外の科目（演習、実習、研究）については KOAN 上にて回答する方式を採用している。2018 年度春夏学期（セメスター制の導入により、昨年度より前期・後期に代わり、春夏学期・秋冬学期に変更）の授業改善アンケートの回収率は 75.4%と、2017 年春夏学期の 72.8%から 2.6 ポイント上昇しており、これで 3 期連続で上昇傾向にある。これにより、集計方式を変更した 2014 年以來の最高値を更新した。ただし、前回よりあらたに施行された KOAN 上によるアンケート回答率は 21.1%と前年度とほぼ同様の値にとどまった（2017 年春夏学期：22.2%）。なお、KOAN 実施分のアンケート回答率の最高は 41.7%、最低は 4.5%であった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.18 であり、学生の授業への満足度は例年通り高い。学系別集計によると、英語コース（G30）および大学院の学生が「非常に良かった」と回答している割合が 48.7%～53.4%と極めて高い。これに行動系を加えた 3 学系が上位を占めているが、いずれも出席率（問 1）、授業方法および資料の工夫（問 8）の値が同様に高いことから、授業内容がその満足度に反映されているといえるだろう。講義科目以外の満足度については、学部平均 4.47、大学院平均 4.59 であった。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 84.9%（2017 年春夏学期：83.9%）と、前年度よりもさらに 1 ポイント上昇しており、こちらも数年来上昇傾向にあるといえる（2016 年春夏学期：77.8%）。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に対して、「ほとんどなし」と答えたのは 39.6%と、前年度の 40.2%とほぼ同様の値を維持しており、こちらも以前より格段に改善されつつある（2016 年春夏学期：41.8%/秋冬学期：50.64%、2017 年春夏学期：40.2%/秋冬学期：46.1%）。学系別集計によれば、G 共生系が前年度 58.2%から今年度 37.6%と大幅な改善を見せ、前回まで学系内でもっとも自習時間が少なかったにもかかわらず、今回は、G30（1.7%）、大学院（17.4%）に次いで、学系内トップにまで改善された。

問 4 の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は 3.78 であり、ほぼ例年と同じ数値を示した（2017 年春夏学期：3.69）。

また、問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が 67.6%（2017 年春夏学期：65.6%）とほぼ変わらず。シラバスについての問 5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては 58.8%が「そう思う」と回答しており、2013 年以降徐々に改善傾向にある。問 6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は 61.0%（2017 年春夏学期：60.0%）、問 9 の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は 4.04（2017 年春夏学期：3.91）と、いずれの項目においても改善傾向にあり、総じて適切な授業運営が実施されていると判断される。

前回より施行された KOAN 上での講義科目以外の回答率は、依然として低いことが問題である（21.1%）。アンケート回答期間中に回答していない学生へのリマインダーメールに加え、科目

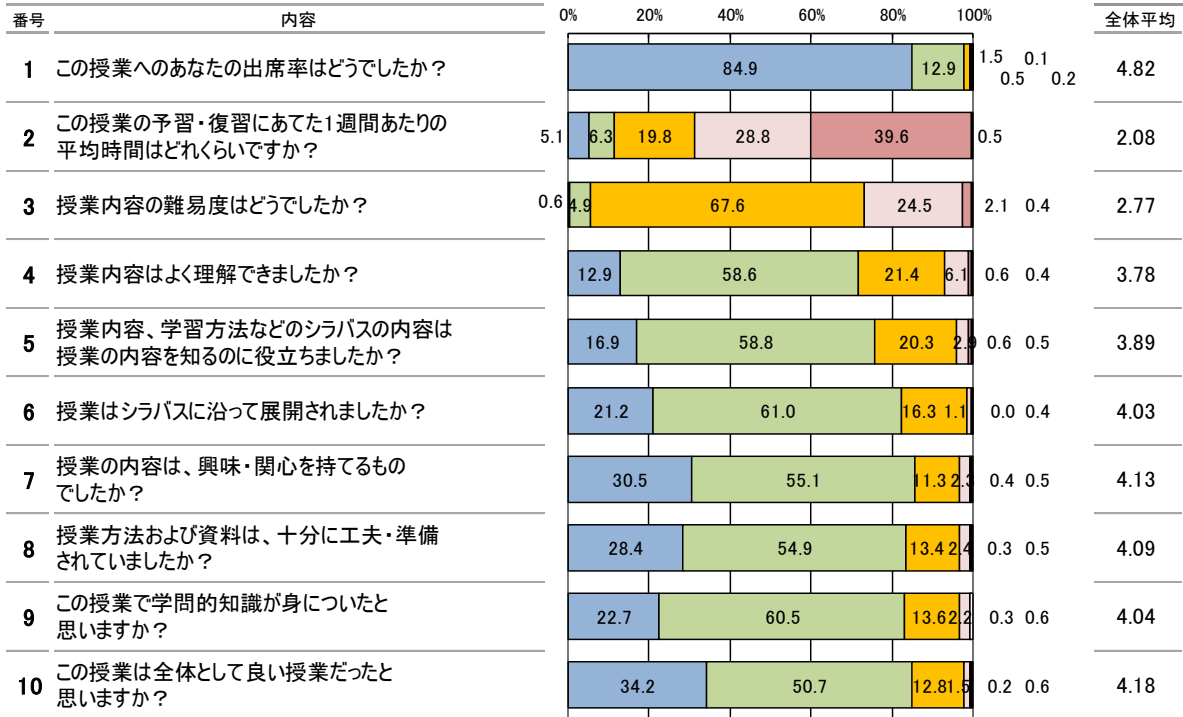
担当教員からの声掛け、授業時間内でのアンケートの実施などによって回収率を向上させる必要がある。今後、引き続き回答率の向上に向けて一層の協力を願いたい。

以下より、2018年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。

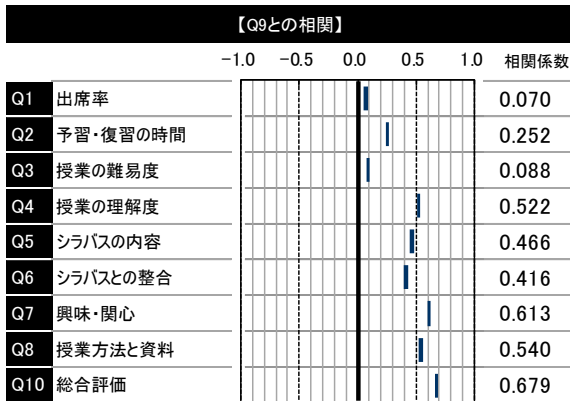
※学系別集計（p. 6）については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

<b>全体集計</b>	履修者数	2889
	回答数	2179
	回答率	75.4%

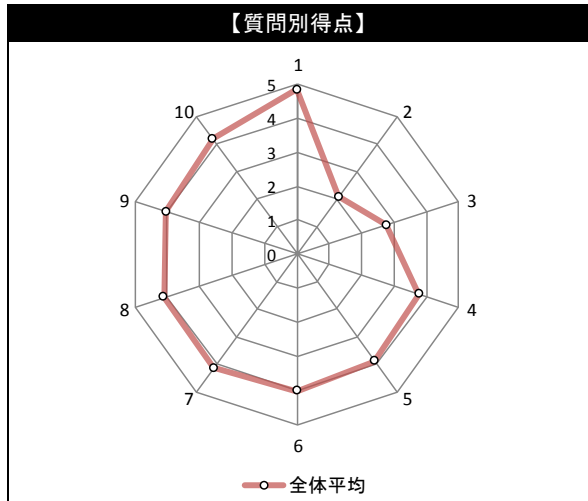
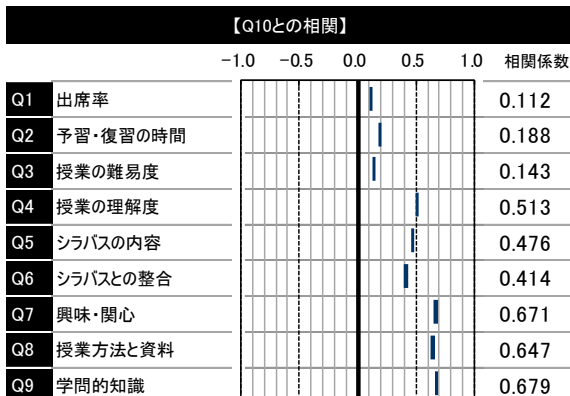


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	不明 (無回答を 含む)
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良くなかった	かなり 良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

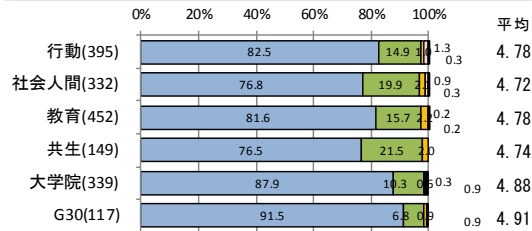


## 学系別集計

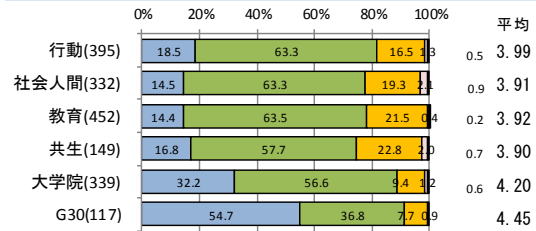
※グラフ内数字は回答率（％）

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	不明 (無回答を 含む)
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	良く なかった	良く なかった	

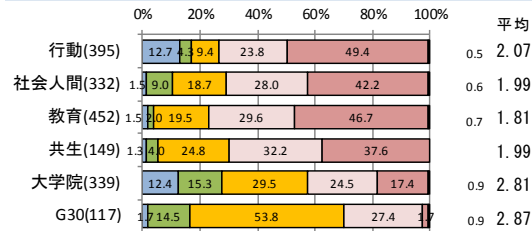
### 1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



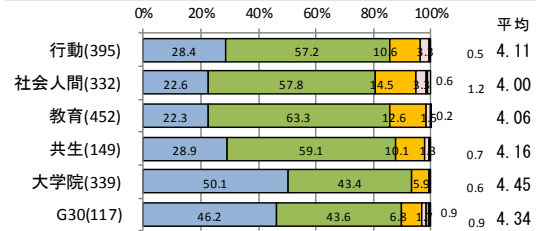
### 6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



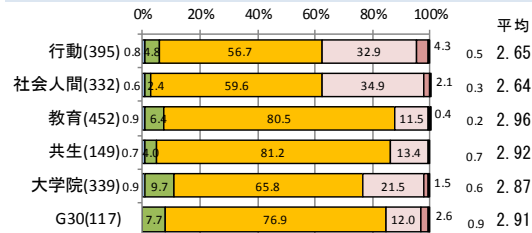
### 2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



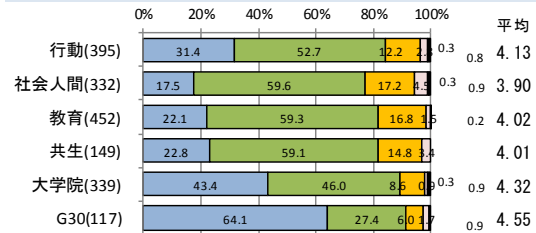
### 7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



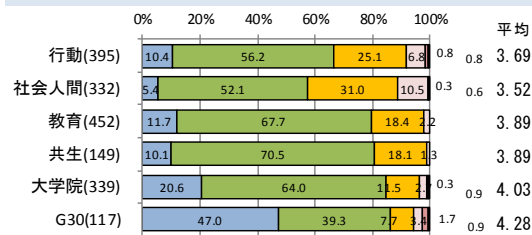
### 3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



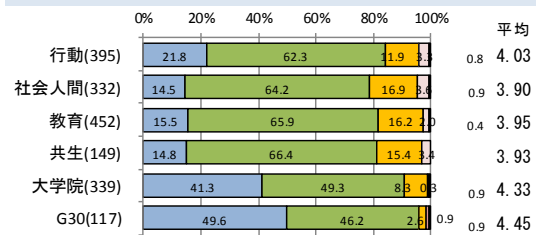
### 8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



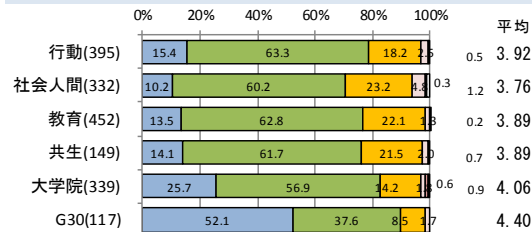
### 4. 授業内容はよく理解できましたか？



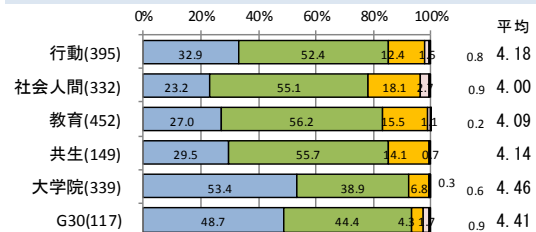
### 9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



### 5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



### 10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？





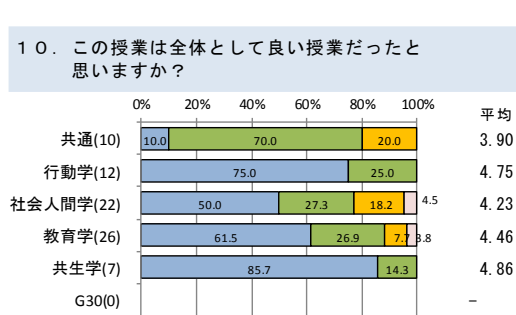
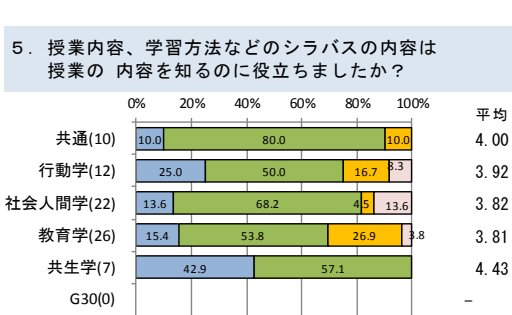
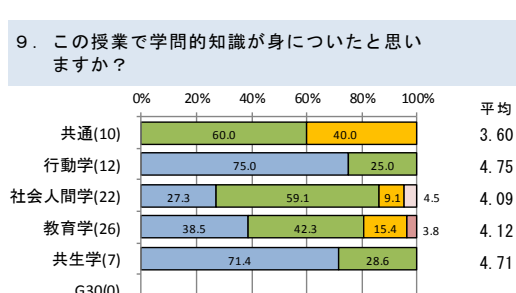
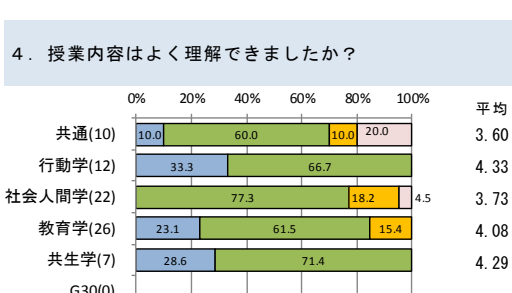
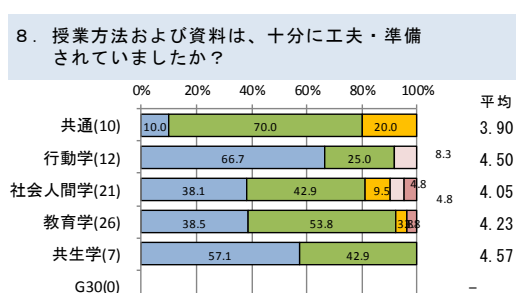
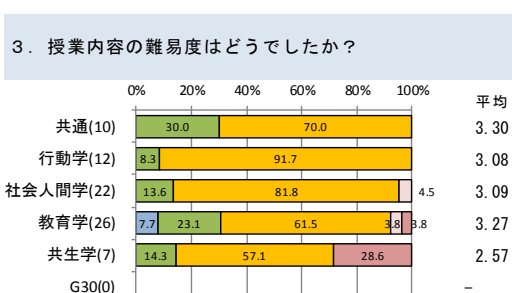
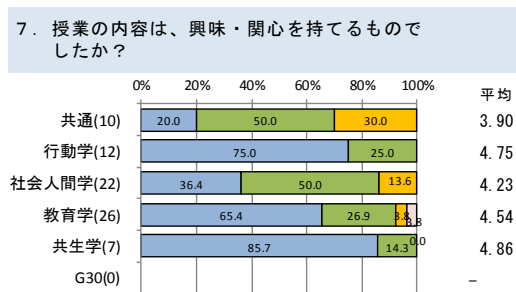
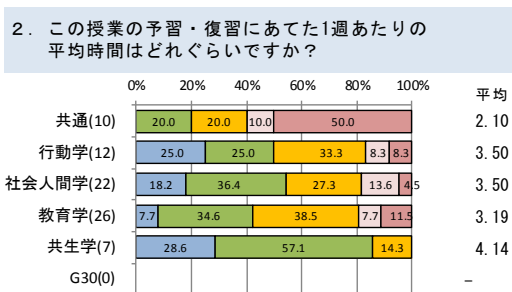
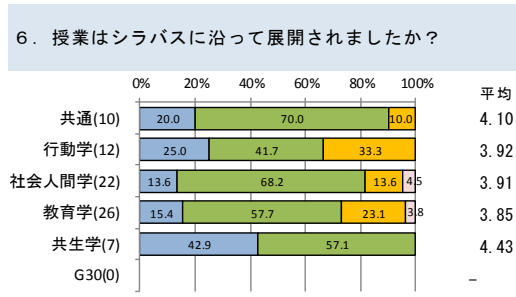
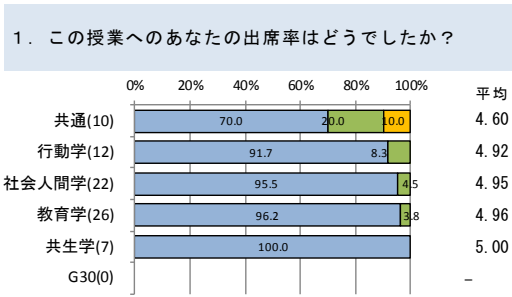
# 講義科目以外(KOAN 実施分)

大阪大学 人間科学部  
授業改善アンケート 2018年度前期  
(KOAN上での実施 演習・実習など)

## 学系別集計

※グラフ内数字は回答率 (%)

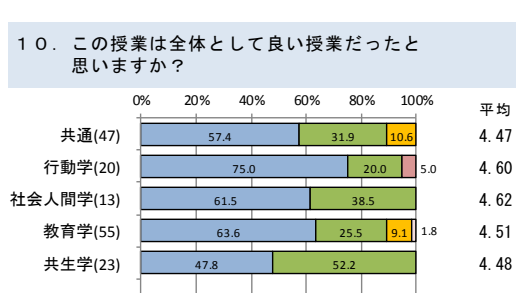
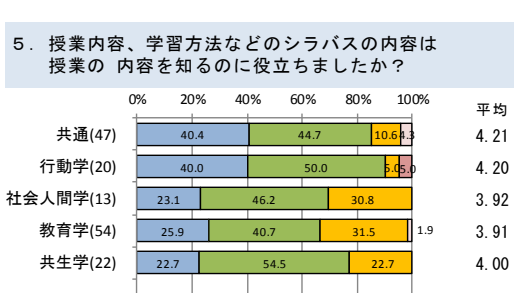
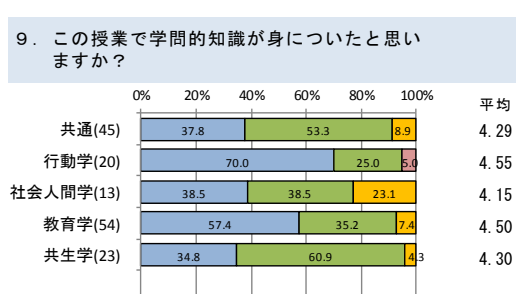
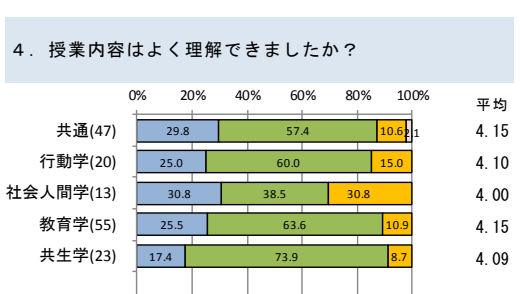
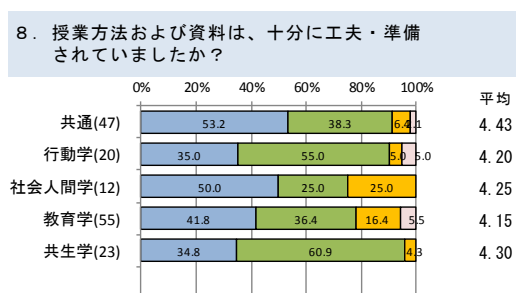
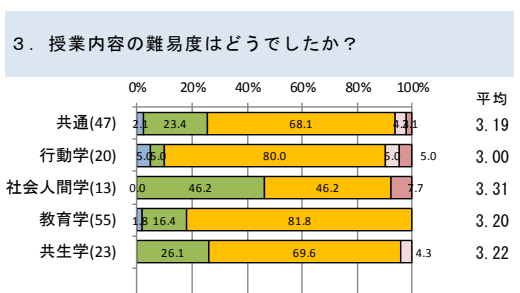
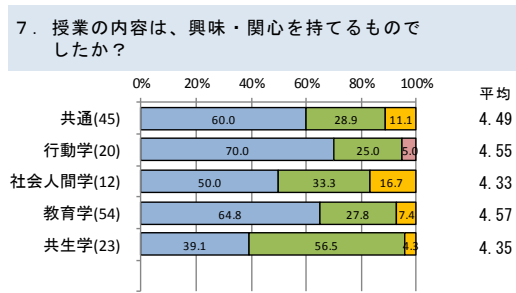
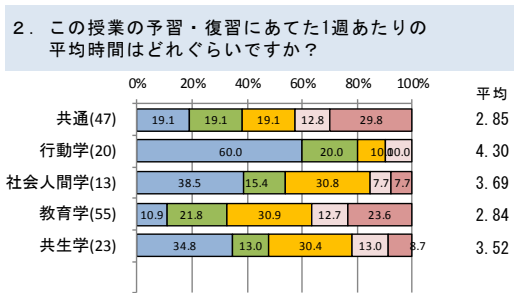
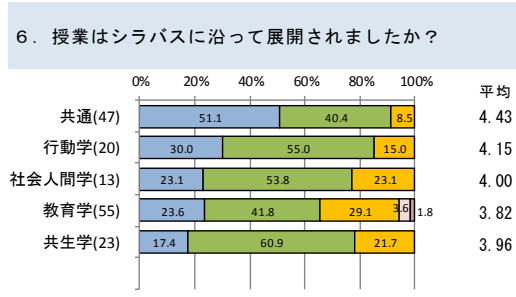
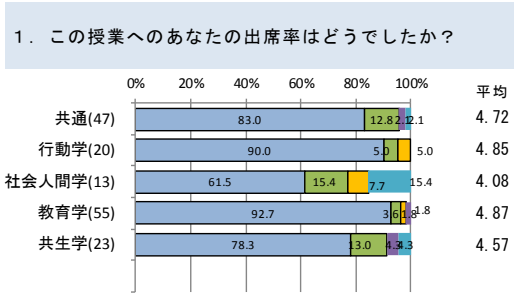
回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	-
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	-
質問3	難しくすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明(無回答を含む)
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも書えない	そう思わない	全くそう思わない	-
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良かった	なかった	-



## 学系別集計

※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強 そう思う	そう思う	どちらとも 書えない	そう 思わない	全くそう 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良かった	良く なかった	



<満足度上位の科目>

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 113 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 56 科目であり、平均値 4.25 を上回ったのは 27 科目であった。

2018 年度春夏学期講義科目

満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	社会科・地理歴史科教育法 B	10	4.80
2	共生の技法 II	12	4.75
3	ヒューマン・ファクターズ心理学	15	4.73
4	共生社会論 II	11	4.64
5	日本教育史	19	4.63
5	社会心理学	51	4.63
6	自然地理学	13	4.54
7	人間科学概論	110	4.46
8	文明動態学	26	4.35
9	教育工学 II	35	4.34

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	人格心理学特講	12	4.75
2	学校経営学特講	16	4.69
3	共生の人間学特講 I	10	4.60
3	心理療法特講	10	4.60
4	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	15	4.53
5	コンフリクトの人文科学特講 I	13	4.15
6	社会心理学特講 I	25	4.48
7	社会変動論特講	12	4.33
8	高等教育論特講 I	10	4.30
9	臨床死生学・老年行動学特講 I (福祉分野に関する理論と支援の展開)	13	4.15

**【G30】**

	科目名	有効回答数	問 10  平均值
1	Comparative Theories of Society and Culture	11	4.64
2	Peace Operations and the Global Community	10	4.60
3	Peace and Conflict Studies I	11	4.55
4	Social Stratification in Japanese Society	10	4.40
5	Global Poverty and Development	11	4.27

### 3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

Schwentker Wolfgang	比較文明学特定演習 I, 比較文明学特別演習 I, コンフリクトの文明学特定演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒「コンフリクトの文明学特定演習 I」のアンケート結果は全体的に良かったという印象を受けた。特に問 9 の学問的知識が身についたかの質問のポイントが高かった。学生のコメントで「授業中に質問をする時間が欲しい」という要望があったので、今後に生かしたいと思う。</p>	
青野 正二	人間行動学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒演習および実験実習 II の授業では、前年度に受講済みの（演習・実習の領域に関連する）講義の理解度をその都度確認しながら進めるようにした。特に、講義で理解困難だったところには時間をより多くの時間を掛けるようにした。また、すでに学習済みの内容も含めて、適宜例題や実験を通じて課題に取り組み、その結果をチェックすることで理解度を把握した。これを受けて秋・冬学期の演習・実験実習 III では、次年度の卒業研究を視野に入れながら、受講生が自主的に課題を見だしそれに対処できるよう、授業のやり方を考えていきたい。</p>	
足立 浩平	推測統計科学
<p>コメント</p> <p>⇒数理科学系の分野は一見難解で、すべて理解するのは不可能なので、理解できなくてもよい部分を見出す嗅覚を持つことが大切です。</p>	
足立 浩平	行動統計科学演習 I, 行動統計科学特定演習 I, 行動統計科学特別演習 I, 行動生態学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒自分独自のオリジナルな発想ができるための想像力とシナリオ構成力を磨いてください。</p>	
稲場 圭信	共生社会論特講 III, 共生学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒おおむねアンケート結果の通りの講義だったと思います。</p> <p>事前に論文・資料を提示し、ディスカッションの時間をとりました。また、授業の一環として人科セミナーへの参加もいれました。社会的課題への幅広い視点を身につけてもらえたと思います。</p> <p>結果としては、学問的知識が身についた 4.67、全体として良い授業 4.56 だったのでよかったと思います。</p>	
井村 修	臨床心理学 II, 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践), 障がい児(者)心理学特講 I, 臨床心理基礎実習 I, 心理実践実習 I, 心理実践実習 II, 心理実践実習 III
<p>コメント</p> <p>⇒臨床心理学 II は、今年度から、公認心理師資格取得の科目になったため、昨年とくらべ 5 割ほど受講者が増加した。授業評価はほぼ全体平均に近いものであった。予習・復習時間が、全体平均より長めだったのは、事前に資料配布し予習を求めたからであろう。「事例を読むことでカウンセリングのプロセスが理解できた」というコメントがあり、この授業の目的はある程度達成できたと思う。</p>	

老松 克博	臨床心理学特別演習 I, 臨床心理学特定演習 I, 臨床心理学演習 I, 臨床教育学実験実習 II, 臨床心理実習 I
<p>コメント</p> <p>⇒今回のアンケート結果は、いずれの科目も回答率が低いため実像を把握するのが難しいですが、単独で担当した学部の臨床心理学演習 I について言えば、難易度がやや高かったようです。臨床心理学領域でもますます実証主義的な姿勢が重視されるようになるなか、この授業で扱ったような内容は、受講生の皆さんにとってなじみの薄いものだったかもしれません。しかし、そのような流れのなかにあるからこそ、心を文字どおり心として扱うアプローチのことも知っておいてほしいと思います。しかし、「なじみの薄さ」が年々増大している印象ですので、説明や解説の仕方にこれまで以上の工夫が必要になったと感じました。</p> <p>大学院の臨床心理実習 I, 臨床心理学特定演習 I, 臨床心理学特別演習 I においては、予習復習がしにくかったようですが、それは、これら実践的な内容を扱う実習や演習が臨床特有の一回性を如実に反映しているからでしょう。数字や定式で扱えないところを学んでいただいたのだとすれば非常にありがたいことです。教員にとっても、臨床の一回性をもつ厳しさは同じです。今後とも、そこで悪戦苦闘する姿を包み隠すことなくお見せするよう心がけたいと思います。</p>	

岡田 千あき	生涯教育学, 生涯教育学特講
<p>コメント</p> <p>⇒授業改善アンケートに回答いただいた皆様ありがとうございました。熱心に受講されていた方が多くみられたと思っていましたが、授業内容が「適切だった」との評価が多く安心しました。</p> <p>一方で、シラバスの記載や予習・復習などについて再考の余地があると思いますので、今後の授業に活かしていきたいと思います。</p>	

岡部 美香	教育人間学特定演習 I(B), 教育人間学演習 I, 教育哲学特講
<p>コメント</p> <p>⇒データからは、授業はおおむね、うまくいっているのだと思いますが、今後も、たゆまず精進していこうと思います。</p>	

小野田 正利	学校経営学, 学校経営学特講, 教育制度学特定演習 I, 教育制度学特別演習 I, 教育制度学演習 I, 教育環境学実験実習 II, 人間科学学際研究特講
<p>コメント</p> <p>⇒私も退職まで残すところ、あと1年半となったので、かなり気合いを入れて授業に取り組んだつもりである。教室は207講義室(ユメンス)が常に満杯になり、大学院生のほか、1学年の学部学生の過半数が受講してくれて、他学部生も何人か混じていたことは嬉しい限りであった。100人でのワークショップを2回も途中で取り入れたが、学生たちの動きのよさおかげでスムーズに進めることができた。</p> <p>アンケート評価は、全体平均を上回っていたので、大人数の講義の中ではかなり成功した部類に入るのではないかと思っている。</p>	

吉川 徹	人間科学基礎実習, 社会調査特定演習 I, 社会環境学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒評価は受けていませんが、気を引き締めて一層よい授業を目指し頑張ります。</p>	

佐々木 淳	臨床心理学特講 I, 臨床心理学研究法特講
<p>コメント</p> <p>⇒アンケート結果から、「臨床心理学特講 I」「臨床心理学研究法特講」の双方において、おおむね学習目標は達成されたように見受けられるが、より入門的かつ実践的な授業になるようにつとめたい。</p>	

佐藤 眞一	臨床死生学・老年行動学特別演習 I, 臨床死生学・老年行動学特定演習 I, 高齢者行動論, 臨床死生学・老年行動学特講 I (福祉分野に関する理論と支援の展開), 臨床死生学・老年行動学演習 I, 人間行動学実験実習 II
-------	---

コメント

⇒高齢者行動論(学部)、臨床死生学・老年行動学特講 I (福祉分野に関する理論と支援の展開)(大学院)の講義は、3名の教員によるオムニバス授業であった。学部と大学院の共通講義としては今年度限りとなり、来年度からは大学院科目となる。そのため、本年度は移行期として位置づけ、内容的には学部レベルで実施した。そのため、一部の大学院生からはもう少し内容を深めてほしいとの意見があった。来年度からは大学院科目として、また公認心理師資格取得に対応する科目としての工夫をする予定である。本科目の実施に当たっては、教員は互いに内容が重ならないように打ち合わせてから授業を行った。アンケート結果はおおむね平均値前後の評価であり、内容的には特に問題はないと考えている。ただし、本年度も学生の予習・復習の時間が少なかった。図書で紹介やコメントペーパーへの記入を行い、次の授業でそれに対するコメントをすることによって復習を促したが、未だ不十分のようなので、今後はさらに改善することが必要であろう。

三宮 真智子	教育コミュニケーション学演習 I, 教育コミュニケーション学特定演習 I, 教育コミュニケーション学特別演習 I, 臨床教育学実験実習 II
--------	--

コメント

⇒授業の平均得点に4以上が多く、概ね良好な評価であった。ただ、1週間あたりの予習復習の平均時間が必ずしも多いとは言えず、この点が課題として残る。また、博士前期課程・後期課程に社会人院生が多いためか、解答率が50%を割っていることもやや問題である。

篠原 一光	応用認知心理学特定演習 I, 応用認知心理学特別演習 I, 応用認知心理学特講 I, 応用認知心理学演習 I, 人間行動学実験実習 II
-------	--

コメント

⇒応用認知心理学特講 I について、受講生が少数だったため演習と似たような形態での講義となった。講義の進め方自体には特段問題はなかったと考えている。今後も同様の内容となると思われるが、受講生の要望に対応した内容となるように工夫したい。

中井 宏	産業心理学
------	-------

コメント

⇒「産業心理学」として扱う内容は多岐に渡ると考えているが、自由記述の中には講義のスピードが速かったとの意見や、内容が多すぎたとの意見があったので、次年度以降は、もう少し各テーマを掘り下げた進捗を検討したい。また予習・復習時間が少ないことが学部・研究科全体を通じての課題だと思われるので、講義資料を事前にCLEにアップするなど、事前学習に繋がるような工夫を図ろうと思う。

中川 敏	人類学特定演習 I, 人類学特別演習 I
------	----------------------

コメント

⇒役に立ちました。

中澤 渉	教育社会学, 教育社会学特講
------	----------------

コメント

⇒特記すべきことはないが、もう少し学生の学習時間が増えるような工夫ができればと考えている。

中野 良彦	生物人類学特講 I, 生物人類学特定演習 I, 行動形態学, 行動形態学演習
-------	--

コメント

⇒研究分野の特性として、学部の授業でも生物学的な内容となるため、学生の学問的興味を維持するのが難しく感じている。しかし、今期は研究室所属の学生が受講していなかったのだが、全体として講義に集中していた。予習・復習に関しては、学生の自主性に任せているが、今後は簡単な課題を与えることも検討している。

西森 年寿	教育学 II, 教育学特講 II, 教育学演習 I, 教育学特定演習 I, 教育学特別演習 I, 臨床教育学実験実習 II
<p>コメント</p> <p>⇒教育学 II については開講曜日時限を変更したので、これまでとは学生の専攻の比率が大きく変わりました。評価のありようもそれを反映しているのかなと思います。今後もそれを考慮して、内容をアップデートしていきたいと思います。</p> <p>演習等に関する自由記述については、正直なところ、全く自覚していなかった指摘もあり、授業のどこを指しているのかもよくわからないために具体的な改善策も浮かばないので、戸惑っています。ともかくも、より深く、自身の言動に向き合いたいと思います。匿名の授業改善アンケートならではであろうと改めて感じました。</p>	

入戸野 宏	基礎心理学特定演習 I, 基礎心理学特別演習 I, 認知心理生理学, 基礎心理学特講 I
<p>コメント</p> <p>⇒昨年度の授業改善アンケートの結果を受けて、講義科目の授業内容と実施方法を見直した。その結果、「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」という設問に対する得点は、学部 4.31, 大学院 4.80 と、全体平均(学部・大学院とも 4.09)を上回っていた。しかし、授業内容の難易度と理解できた程度の評価は昨年度と同じくらいであり、改善がみられなかった。受講生には、生理学・神経科学の初修者が多い。理解できたという感覚を高める工夫をすることが、来年度の課題である。</p>	

野尻 英一	文明動態学, 文明動態学特講, 現代人間学演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒私は4月から大阪大学勤務となりましたが、大阪大学のみなさんの学習意欲の高さには驚かされました。非常に熱心に授業を聞きますし、CLEによるコメントやレポートの作成もとても積極的です。これまでいくつかの大学で教えてきましたが、これほど学問への意欲の高い大学生を教えたのは初めてです。さすが大阪大学だと思いました。アンケート結果にもみなさんの熱意が反映されており、参考になる感想を多数ありがとうございました。教室環境(空調)の調整など提案された改善点は、ぜひ直していきたいと思います。来年からもみなさんを教えるのがとても楽しみです。</p>	

野村 晴夫	臨床心理面接特講 I (心理支援に関する理論と実践)
<p>コメント</p> <p>⇒概ね及第点のようですが、今年度開設の公認心理師科目として、法令に沿ってさらなる改善を進めます。</p>	

平井 啓	健康・医療心理学 (Health and Medical Psychology), 保健医療分野に関する理論と支援の展開 (Support Theory and Applications in Medical and Health Area)
<p>コメント</p> <p>⇒来年度は、授業内容をできるだけ事前に提示すること、資料の配布方法などの改善を行いたい。復習などの効果的な自己学習を行えるような授業構成となるように改善に努めていきたい。</p>	

藤川 信夫	教育人間学特定演習 I(A), 共生の人間学特定演習 I-b, 人文学と人間科学, 教育人間学 I, 共生の人間学 I, 教育人間学特講 I, 共生の人間学特講 I
<p>コメント</p> <p>⇒「人文学と人間科学」について：全般に平均値をやや下回る結果であったため、改善の必要がある。自由記述から判断すると、藤川担当部分の内容が難しすぎた点、KOANに資料を掲示する期間を延長すべき点など改善が必要である。</p> <p>他の先生方の担当部分については、パワーポイント資料をKOANもしくはCLEに上げて欲しいという要望があった。</p> <p>全般的には、必修としての位置づけを講義内容により明確に反映し、できるだけ専門分野間を接続するような工夫が必要であったと思われる。また、試験の方式についても改善の必要があるかもしれない。</p> <p>「教育人間学(共生の人間学)I」および「教育人間学特講(共生の人間学特講)I」については、平均値を若干上回る程度であり、とくに自由記述でも意見がなかったため、従来より改善されたものと思う。</p>	



前馬 優策	キャリアデザイン概論, インターンシップ実習A, インターンシップA
<p>コメント</p> <p>⇒「キャリアデザイン概論」は回答者が1人だが、回答した1人は、おおむね好意的な回答を寄せている。また、「インターンシップ実習A」は、回答者が5人であった。授業出席者は20人程度であるので、やはり回収率が少ない。通年科目であるため、実習に赴く前の結果であるが、どちらかと言えば肯定的な回答に寄っているだろうか。「予習復習」をどのように捉えたかがわからないが、予習復習の時間が「ほとんどなし」という結果になっている。インターンシップに向けての準備の重要性を訴えていただけに、少し寂しい結果である。</p> <p>Web上での回答ということ、授業内で回答の機会を設けなければ、回収率を上げることは難しいだろう。しかし、キャリアデザイン概論は集中講義形式で5月に終わり、インターンシップ実習も事前指導として数回が設けられているだけである。受講者には、メールで回答依頼を行ったが、やはり厳しい状況である。</p> <p>私自身が担当した科目以外でも回答率が低いものも多く、こうしたアンケートを本気で授業改善に生かすならば、回答率を上げることから始めなければならないのではないかと感じた。</p> <p>たとえば、ある程度回答しなければ成績を見られなくする、など。</p> <p>自分が学生だったら面倒だなと思うが。</p>	

牟田 和恵	コミュニケーション社会学特定演習 I, コミュニケーション社会学特別演習 I
<p>コメント</p> <p>⇒比較的、学生満足度が高い結果が得られたが、今後も学生の授業参加意欲を高められるよう努めたい。</p>	

村上 靖彦	現代人間学演習 I, 現象学的な質的研究特講, 現代思想特定演習 I(B), 現代思想特別演習 I(B)
<p>コメント</p> <p>⇒今回はおおむね高評価をいただけたので安堵しております。より明確に方法論が伝わるよう改善していきたいと思えます。</p>	

森田 邦久	科学哲学, 科学哲学特講
<p>コメント</p> <p>⇒今年度は阪大人科着任最初の講義であった。まだ阪大生の理解能力を把握できていない中での講義であり、当初の予測（と講義中での受講生の反応）ではやや難しかったのではないかと懸念したが、意外と「易しい(1or2)」という評価が多かった。だが、この評価は院生より学部生に多かった（学部生8名中6名が「やや易しい」、2名が「易すぎる」に対して院生5名中3名が「適切」、2名が「やや易しい」）ので、もしかしたら単に重要な箇所をわかっているが故の「易しい」という評価かもしれない。次回はその辺りのことも踏まえて難易度の調整をしたい。</p>	

八十島 安伸	学習生理学
<p>コメント</p> <p>⇒人間科学部の授業の中でも、とりわけ理科系的な講義でしたが、講義の内容については、アンケートでは適切とやや易しいが多かったのが意外でした。しかしながら、その感想と試験の成績との相関性には疑義が残ったのも事実です。つまり、講義においては判ったような気になっても、深い理解や洞察には至らなかった場合があるのではないかと思います。これは授業のやり方にも問題があることを示唆しているかと思えます。ただ、受講生の興味・関心は概ね喚起できたようなので、今後も同じ内容ややり方の講義形式を踏襲したいと思えますが、一部は改善する予定です。資料については、見づらいことがないように配慮します。また、コメントへのフィードバックの共有化は、今年は時間的なことから行いませんでしたが、来年度以降は復活させたいと思えます。</p>	

八十島 安伸	行動生理学
<p>コメント</p> <p>⇒今年度は、この科目は夏季集中講義として開講し、最後の3コマにゲストスピーカーをお呼びして、これまでとは異なる内容を含む講義としました。集中講義であったため、受講生の多くは3年生以降となり、2年生の受講がなかったのが残念でした。これは講義の周知の仕方に工夫が必要であることを示していますので、今後この点は改善したいと思います。概ね受講生の満足を得ることができたことは良かったです。今後も、「人間科学の中の神経科学・脳科学」をどのように位置づけるべきかを重視しながら、講義を行っていく予定です。</p>	

八十島 安伸	自然科学と人間科学
<p>コメント</p> <p>⇒この科目も2年目ということもあり、科目の学習目標や意義をどのように具体化するべきかについては改善を加えました。科目へのアンケート結果をみれば、概ね、受講生には満足してもらえたと思います。各ご担当の先生方の御尽力の結果であるとも思います。ただ、講義のやり方や資料の配布・呈示の仕方には改善すべき点があったようですので、この点は次年度以降に引き継ぎます。15回中の2回のグループワークや議論では、ほぼ全ての受講生が主体的に参加し、意見を述べ合っていることが印象的でした。これは、人間科学概論にて、そのようなアクティブラーニングの訓練がなされている成果なのかもしれません。そのようなグループワークを増やして欲しいという要望もありますが、概論・自然科学と人間科学・人文学と人間科学の3科目は連動しており、個々の教育目的は相互補完的に設定されています。つまり、どの科目も同じような形式では行わないこともありえるということになります。ただ、この点についても、今後、検討する余地はありますので、次年度以降の課題ではあると思います。人間科学のカバーする学問領域や学際性、そのアプローチの仕方において、自然科学的な視座の重要性に気が付いてもらえることができれば、一番の学習目標は達成されたということになります。</p>	

山中 浩司	文化社会学演習 I, 文化社会学, 文化社会学特講, 文化社会学特定演習 I(A), 文化社会学特別演習 I(A)
<p>コメント</p> <p>⇒文化社会学・文化社会学特講ともに、受講生の評価は概ね良好であった。授業内容についてもう少し専門的な話に踏み込んでよいという印象を受けたので、来年度から内容を一部変更することを検討する。文化社会学特講については、来年度入学者の新カリキュラムにはないので、今後大学院生でメディア論、コミュニケーション論の基礎的知識が必要な人は、文化社会学を受講してほしい。スライドすべてを印刷して配布するか、CLEで取得できるようにして欲しいという要望があったが、印刷については受講生の数から困難であるが、CLEで配布することも今後検討する。</p>	

綿村 英一郎	社会心理学, 社会心理学特講 I, 社会心理学特定演習 I, 社会心理学特別演習 I, 社会心理学演習 I, 人間行動学実験実習 II,
<p>コメント</p> <p>⇒ アンケートの評価をみると、全体的には私の授業に興味をもっていただけているようで、大変嬉しく思いました。今後も受講生の皆さまに「面白い」、「また聞きたい」、「もう少し詳しく話してほしい」と思ってもらえるような授業になるように工夫を重ねていきたいと思っています。</p>	